

我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立下阪本小学校

○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【結果について】

《国語科・算数科 調査結果より》

国語科

- ・本校の全領域の結果内で比較すると、「思考力、判断力、表現力等」の「書くこと」が最も良い結果となっていた。
- ・「思考力、判断力、表現力等」の「話すこと・聞くこと」「読むこと」、「知識及び技能」の「情報の扱い方に関する事項」について、課題が見られた。

算数科

- ・本校の全領域の結果内で比較すると、「D データの活用」「B 図形」が良い結果となっていた。
- ・「C 変化と関係」「A 数と計算」について、課題が見られた。

《児童質問紙の回答結果より》

- ・国語科については、「勉強が好き」と回答した児童の割合が高かったが、算数科については、その割合が低かった。
- ・外国語科については、「英語の勉強が好き」と回答した児童の割合が高かった。
- ・「いじめはいけないことだと思う」、「友達関係に満足している」と回答した児童の割合が高かった。
- ・「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがよくある」と回答した児童の割合が高かった。
- ・「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と回答した児童の割合は高かったものの、「地域の行事に参加している」と回答した児童の割合は低かった。
- ・「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童の割合はやや低かった。

【指導の充実に向けて】

- 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図ります。特に、言語活動を充実させ「話すこと・聞くこと」の力を伸ばします。
- 引き続き「書く活動」をいろいろな場面で意識して広げ、深め、読解力や文章表現力を伸ばします。
- 児童が主体的に学習に取り組み、根拠を基に考えることができるように、算数科を中心とした授業改善に努めます。
- デジタル教科書等、ICTを積極的に活用し基礎学力の向上に努めます。
- 自ら前向きに判断し、自他に対して適切な行動のできる子ども（自立した子ども）を育てます。
- 学校運営協議会を核に、地域・家庭・学校が目標を共有し、「地域とともにある学校づくり」に努めます。
- 児童自らが様々な課題に向かい解決できる力を育成できるよう、「学校夢づくりプロジェクト」など、自尊感情を高めるための取組を継続・充実させます。